

日本教師教育学会 第31回研究大会

大会テーマ

教育者の資質・能力と力量を考える
～教育現場と教師教育研究との間～

大会プログラム



会期：2021年10月2日（土）～3日（日）

オンライン開催 大会準備校 筑波大学

主催：日本教師教育学会

後援：つくば市教育委員会、茨城県教育委員会

日本教師教育学会第 31 回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

大会実行委員長 樋口 直宏

日本教師教育学会第 31 回研究大会は、2021 年 10 月 2 日（土）～3 日（日）にオンラインで開催されます。このたび、大会に向けての諸準備を筑波大学で担当することになりました。

多くの学会でオンラインでの大会開催が行われるようになり、会員同士が直接顔を合わせて議論することが困難となる一方、移動に伴う様々な負担が軽減されたり、画面共有やブレイクアウトルーム等の機能を活用したりといった、新しい形での大会の姿も見えてきました。特に、本学会では昨年度の第 30 回大会においても、他学会に先がけて自由研究発表やラウンドテーブルを含む、過去とほぼ同様のプログラムで実施しています。第 31 回大会でも、前回のホームページ上のシステムを活用しつつ運営を踏襲しており、実行委員会として心強く思いながら準備を進めてきました。

その反面、全国各地の会場で大会が開催できないことは、会場校の独自性の創出を難しくさせています。筑波大学の場合、ご存じのように東京師範学校から始まる長い歴史や、11 校を数える附属学校、新構想大学としての研究者養成と教師教育といった、多くの特色があります。また大学本部のあるつくば市についても、筑波研究学園都市の開発から約 50 年が経過する一方で、2005 年に開業したつくばエクスプレス沿線では新たな町づくりや学校新設が進められています。このような特色は、実際に足を運んでいただければ自ずと伝わる面もありますが、ヴァーチャル上では難しく、どうすれば「筑波らしさ」を出せるのか苦心しています。

これらの状況を勘案しながら、第 31 回大会のテーマは「教育者の資質・能力と力量を考える：教育現場と教師教育研究との間」としました。コロナ禍において教育現場はどのように変わり教育者には何が求められるのか、そして教師教育研究者はそれにどのように応えるかといった問題について、参加者の皆さんと一緒に考えることができればと思っています。

本学会に所属する筑波大学教員は、実はそれほど多くないのですが、大学院生や本学出身の他大学教員にも実行委員としてお手伝いいただき、円滑な大会運営ができるように精一杯努力しています。多くの会員の皆様のご発表並びにご参加を、心よりお待ち申し上げます。

大会プログラム 目次

大会テーマ	0
日本教師教育学会第 31 回研究大会要領	0
自由研究発表	3
第 1 分科会	4
第 2 分科会	5
第 3 分科会	6
第 4 分科会	7
第 5 分科会	8
第 6 分科会	9
第 7 分科会	10
第 8 分科会	11
第 9 分科会	12
定期総会	13
シンポジウム	14
自由研究発表	16
第 10 分科会	17
第 11 分科会	18
第 12 分科会	19
第 13 分科会	20
第 14 分科会	21
第 15 分科会	22
第 16 分科会	23
第 17 分科会	24
課題研究Ⅰ	25
課題研究Ⅱ	27
課題研究Ⅲ	28
ラウンドテーブルⅠ	29
ラウンドテーブルⅡ	30
ラウンドテーブルⅢ	31
ラウンドテーブルⅣ	32
研究推進・若手交流企画	33

大会テーマ

教育者の資質・能力と力量を考える ～教育現場と教師教育研究との間～

世界中に広がった新型コロナウイルスは、日本の教育界にも大きな影響を及ぼした。2020年3月から、多くの学校や教育現場は臨時休校となり、児童生徒に対する家庭学習課題やICTを使った教材の作成と配信等、教師は自らの感染にも留意しながら授業づくりや生徒指導にあたった。再開後も、夏休みの短縮、行事の中止・縮小、ソーシャルディスタンスを確保した活動や校内の消毒等、これまでにないさまざまな活動が求められた。また教師教育についても、教育実習の延期・短縮やオンラインでの研修など、新しい形での実践が行われた。

そのような中、2021年1月には中央教育審議会から『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が答申された。そこでは、Society5.0 社会における予測困難な時代の到来における持続可能な社会の創り手となるために、個別最適な学びと協働的な学びの実現が目指された。具体的には、履修主義と修得主義の組み合わせ、小学校高学年における教科担任制の導入、高校普通科の再編と弾力化等が提言されており、特に GIGA スクール構想をふまえた ICT 教育の充実を強調している点が特徴である。

さらに、2021年3月には『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」が諮問された。具体的には、1)教師に求められる資質・能力の再定義、2)多様な専門性を有する質の高い教職員集団の在り方、3)教員免許の在り方・教員免許更新制の抜本的な見直し、4)教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化・高度化、5)教師を支える環境整備の5点が事項としてあがっている。国際社会において、OECD(Learning Compass 2030)、SDGs、STREAM のように目指す人間像が多様化しており、教育現場の役割にも変化が見られる。また、人口増加・減少地域の教育、外国人児童生徒や特別支援教育への対応、働き方改革等、教師を取り巻く環境も変容している。その中で、社会、産業界、地域、家庭や児童生徒は、教育現場に何を求めているかを検討するとともに、教師教育研究のこれからの姿やあり方を見定めなければならない。

以上のような問題意識に立ちながら、第31回大会では「教育者の資質・能力と力量を考える：教育現場と教師教育研究との間」を大会テーマとして設定した。教師の資質・能力や力量については、教師の仕事に対する使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力等とともに、自律的に学ぶ姿勢、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力といった力量が従来求められていた。これに加えて、時代の変化に対応して求められる資質・能力として、AI やロボティクス、ビッグデータ、IoT といった技術の発展による情報活用能力等が構想されている。中央教育審議会の答申や諮問をふまえつつ、新型コロナウイルス禍が突きつけた諸課題を受けて、これからの教育者にはどのような資質・能力と力量が求められるのかを、教育現場と教師教育研究という異なる視座から多角的に捉え直してみたい。

公開シンポジウムにおいても、教育行政、教育現場（管理職・教師・子ども・保護者）、教師教育研究の視点から意見を寄せ合い、教育者の資質・能力と力量を中心に議論したい。ICT の活用スキル、子どもの個性や学び方の差異への対応力、家庭環境や地域背景への配慮を含めた社会的公正への認識など、論点は広範囲に及ぶものと思われる。学会30年の歴史をふまえながら、本大会が新たな教師教育のあり方を考える第一歩となれば幸いである。

日本教師教育学会第 31 回研究大会要領

1. 大会テーマ

「教育者の資質・能力と力量を考える～教育現場と教師教育研究との間～」

2. 会期

2021年10月2日（土）、3日（日）

3. 会場

オンライン開催（大会準備校 筑波大学）

4. 日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
1日目 10月2日		9:30 - 12:00 自由研究発表		昼食	13:00 - 14:15 総会		14:30 - 17:30 公開シンポジウム			18:00 - 19:00 情報交換会
2日目 10月3日		9:30 - 12:00 自由研究発表		昼食	13:00 - 16:00 課題研究Ⅱ・Ⅲ			16:30 - 18:00 ラウンドテーブル 研究推進 若手交流会		

○本大会は、Zoom(<https://zoom.us/>)による LIVE 配信を基本とします。

○課題研究Ⅰはオンデマンド動画配信です。10月2日以降、10月10日まで配信予定です。

○情報交換会は、SpatialChat(<https://spatial.chat/s/31stjsste>)で行います。どうぞご予定下さい。

5. 大会参加方法、参加費

■ 学会員の皆様の参加について：学会費全納が条件・事前申込不要・参加費無料

学会費を全納した学会員は、すべてのプログラムに無料で参加できます。参加者専用サイトに入るための情報は、9月27日より「会員情報システム」内に表示されます。

■ 学会員以外の皆様の参加について：事前申込必要・参加費 2000 円

日本教師教育学会第 31 回大会サイト (<https://31st.jsste.jp/>) から事前参加申し込みを行い、参加費を振り込んで下さい。総会以外のすべてのプログラムに参加できます。参加者専用サイトに入るための情報は、9月27日以降メールでお伝えします。

■ 公開シンポジウムのみ参加希望の学会員以外の皆様へ：事前申込必要・参加費無料

学会員以外で、公開シンポジウムのみ参加を希望する方は、9月末日までに、日本教師教育学会第31回大会サイト (<https://31st.jsste.jp/>) から事前参加申し込みを行ってください。参加に必要な情報は、9月27日以降メールでお伝えします。

6. 自由研究発表・ポスター発表について

- 自由研究発表の口頭発表者が1名の場合は30分（発表20分、質疑10分）、口頭発表者が複数の共同発表は50分（発表35分、質疑15分）です。
- 発表取消があった場合は、以降の発表を繰り上げることはせず、その時間を質疑または休憩の時間に充てることにします。
- 発表者と司会者は、分科会の開始前に発表会場（Zoomの割り当てルーム）に入室し、技術的な設定や簡単な打ち合わせを行ってください。
- 遠隔配信につき、予鈴を鳴らすことはいたしません。それぞれ時間に注意しながら発表を行ってください。
- 当日の報告時間には、司会の指示に従いつつ、「画面の共有」等の操作を進めてください。

7. 発表に係る機材について

- 発表に必要なインターネット環境、マイクとカメラ（PC内蔵のものを含む）は各自でご準備ください。またあらかじめZoomアプリをダウンロードしておいてください。
- 分科会開始前に、必ず各自で接続のチェックや音量の調整等、必要な準備をお進めください。（9月18日にカメラ・マイクチェックのためのリハーサルを予定しています）
- 基本的にマイクはミュートの設定にしておき、報告時のみミュートを解除してください。ご自身のカメラ画像を表示するかしないかは任意です。

8. 発表資料について

- 資料につきましては、事前に所定の期日までにお送りいただき、大会Webサイトの参加者専用サイトにリンクを貼り、ダウンロードできるようにさせていただきます。提出期日以降は、ご発表時に各自でお配りいたします。詳細は発表要領をご確認ください。

9. 分科会等会場

- 遠隔配信での口頭発表は、17分科会を設定しております。参加される発表会場（ZoomミーティングID）をご確認のうえ、それぞれご入室ください。
- 分科会で使用するZoomミーティングID／パスワードの設定は学会事務局が行いますので、発表者が個人でZoomアカウントを取得し、ミーティングを設定する必要はありません。

10. 公開シンポジウム

○テーマ：

「教育者の資質・能力と力量を考える～教育現場と教師教育研究との間～」

○日時： 10月2日（土） 14:30～17:30

○シンポジスト： 荒瀬 克己（独立行政法人教職員支援機構）

小柳 和喜雄（関西大学）

安藤 知子（上越教育大学）

渡辺 貴裕（東京学芸大学）

○司会： 高谷 哲也（鹿児島大学）、樋口 直宏（筑波大学）

11. 課題研究／研究推進・若手交流支援企画

○ 10月3日（日） 13:00～16:00

課題研究Ⅱ

「日本の大学における教員養成と教育学―多様な「場」をつなぐ論理を探る―」

課題研究Ⅲ

「多様な教職ルートの構造と実態に関する国際比較研究（1）

―諸外国における多様な教職ルートの諸相―」

※ 課題研究Ⅰ「変動する社会の中の学校・教師の再定義―COVID19のインパクトを問う」
はオンデマンド動画配信です。10月2日以降、10月10日まで配信予定です。

○ 10月3日（日） 16:30～18:00

研究推進・若手交流企画

「『保幼こ・小』の接続期を担う教師の力量形成―養成と研修ならびに資格制度の課題―」

12. ラウンドテーブル

○ 10月3日（日） 16:30～18:00

Ⅰ 変動社会の教職課程―武蔵大学教職課程を事例として―

Ⅱ 教師教育における「省察」言説の生成と展開に関する予備的考察
―理論・政策・研究の関係から―

Ⅲ コロナ状況下における授業研究会

Ⅳ 教師養成と子ども文化⑥そして遊べる教師はいなくなった。遊べない教師たち
―遊びと学びの境界線について考える―

10月2日（土）大会第1日

自由研究発表

定期総会（学会員のみ）

公開シンポジウム

情報交換会

※Zoom（リアルタイム配信）

第1分科会 10月2日(土) 9:30~11:50

司会：赤星 晋作（広島市立大学）
伏木 久始（信州大学）

9：30～10：00

生徒の多様性に関する教師の専門性研究
—英国における教師スキーム研究動向から—

○荒巻 恵子（帝京大学）

10：00～10：30

小学校の初任者研修におけるメンタリングの課題
—メンターへのアンケート調査及びインタビューの検証を通して—

○後藤 郁子（お茶の水女子大学）

10：30～11：20

カリキュラム・マネジメント実践を支える要因とその課題
—教師の意識調査から—

○中田 正弘（白百合女子大学）

○坂田 哲人（大妻女子大学）

○町支 大祐（帝京大学）

荒巻 恵子（帝京大学）

11：20～11：50

全体討議

第2分科会 10月2日（土） 9:30～11:50

司会：鹿毛 雅治（慶応義塾大学）

長谷川 哲也（岐阜大学）

9：30～10：00

アメリカにおける Lesson Study の展開

—Mills College の Lesson Study グループの役割に着目して—

○北田 佳子（埼玉大学）

10：00～10：30

欧州の多様性に開かれた教員養成—ドイツとスイスに着目して—

○中山 あおい（大阪教育大学）

10：30～11：20

自己探究に向かう教師のリフレクション

—「対話的自己」を観点としたカリキュラム開発の試み—

○若木 常佳（福岡教育大学大学院）

○宮本 浩治（岡山大学大学院）

○藤原 顕（福山市立大学）

○矢野 博之（大妻女子大学）

11：20～11：50

全体討議

第3分科会 10月2日（土） 9:30～12:00

司会：原 清治（佛教大学）
仲田 康一（大東文化大学）

9：30～10：00

教育における実践共同体の探究

○小嶋 英夫（文教大学）

10：00～10：30

中学校教師が認知する自他への意識と職場環境及び生徒への指導行動との関連

○古田 伸子（磐田市立豊田中学校）

10：30～11：00

高等学校における授業改善のためのメンターの働きかけの提案

—同僚社会科教師へのメンタリングを通して—

○山下 博暢（大阪府立農芸高等学校・大阪教育大学大学院）

11：00～11：30

教職員間連携における対立と調整の背後にある規範

—スクールカウンセラーの介入をめぐるケース会議の会話分析—

○小田 郁予（東京大学大学院）

11：30～12：00

全体討議

第4分科会 10月2日（土） 9:30～12:00

司会：牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

金子 真理子（東京学芸大学）

9：30～10：00

香港とインドネシアにおけるレッスンスタディの談話スタイルの比較検討

○滝本 葉子（学習院大学大学院）

10：00～10：30

韓国の学校―地域連携ガバナンス構築における教師の主体的実践に関する研究
―始興市「幸福教育支援センター」を中心に―

○金 聯珠（神戸大学大学院）

10：30～11：00

韓国の初等教員養成における教育実習の現状―教育大学校の事例を中心に―

○森 貞美（聖徳大学）

11：00～11：30

韓国の障害教員雇用政策

○中村 雅也（東京大学）

11：30～12：00

全体討議

第5分科会 10月2日（土） 9:30～11:30

司会：金馬 国晴（横浜国立大学）

浅野 信彦（文教大学）

9：30～10：00

教職科目「教育方法論」における ICT 活用に関する一考察

○藤原 靖浩（関西福祉科学大学）

10：00～10：30

総合的な学習の時間の指導法の導入状況と教職の専門性の開発

○宮崎 充治（弘前大学）

10：30～11：00

関東地方における短期大学のシラバス分析と考察

—教育課程論を中心に—

○中島 眞吾（中部大学）

田中 卓也（静岡産業大学）

中塚 健一（小田原短期大学）

塚越 亜希子（群馬医療福祉大学）

11：00～11：30

全体討議

第6分科会 10月2日（土） 9:30～11:30

司会：船寄 俊雄（大阪信愛学院短期大学）
高旗 浩志（岡山大学）

9：30～10：00

教員評価が抱える根本的な問題

—大阪府の教員評価システムについてのアンケート結果から—

○杉浦 健（近畿大学）

10：00～10：30

育成指標をもとにした教頭職の力量認識と研修のあり方

—管理職対象のアンケート調査とインタビュー分析を通して—

○北谷 晃久（大阪市教育センター）

柏木 賀津子（大阪教育大学）

10：30～11：00

小中学校の教職員から見た校長のリーダーシップについての特徴

○西川 潔（関西福祉科学大学）

11：00～11：30

全体討議

第7分科会 10月2日(土) 9:30～11:30

司会：勝野 正章（東京大学）
佐藤 仁（福岡大学）

9：30～10：00

教職大学院における ALT の専門職学習コミュニティに関する事例研究
○王 林鋒（福井大学）

10：00～10：30

教職大学院実務家教員の在り方に関する考察
—教職アイデンティティに着目して—
○田中 満公子（大阪教育大学）

10：30～11：00

教職大学院実務家教員による教育実践研究の工夫点
—3つのケースの比較検討を通じて—
○木原 俊行（大阪教育大学）
小柳 和喜雄（関西大学）
野中 陽一（横浜国立大学）

11：00～11：30

全体討議

第8分科会 10月2日（土） 9:30～11:30

司会：吉岡 真佐樹（京都府立大学）

油布 佐和子（早稲田大学）

9：30～10：00

非教員養成大学における教職履修学生の教師の資質・能力観の形成に関する一考察
—「教職履修カルテ面談」の実践を通じて—

○小原 淳一（大阪市立大学）

鈴木 伸尚（大阪市立大学）

10：00～10：30

学校内外の音楽活動から見た音楽教員の力量向上の方策についての一考察
—音楽教員養成専門機関のカリキュラム改善を目指して—

○董 芳勝（創価大学）

10：30～11：00

探究型の授業実践に向けた教職準備性

○羽野 ゆつ子（大阪成蹊大学）

11：00～11：30

全体討議

第9分科会 10月2日(土) 9:30~11:50

司会：山崎 準二（学習院大学）
岩田 康之（東京学芸大学）

9：30～10：00

reflection について2つの意味とその方法論
— ショーンとコルトハーヘンを例として—

○岡村 美由規（広島大学大学院）

10：00～10：30

模擬授業後の省察の違いによる大学生の学びのプロセスに関する研究
—ALACT モデルと従来の方法による省察後の日誌を対象として—

○梶井 大輔（桃山学院教育大学）

10：30～11：20

英米の教師教育における「省察」言説の生成と展開（1）
—NPM 型改革下の教師教育政策・スタンダードに着目して—

○朝倉 雅史（筑波大学）

○高野 和子（明治大学）

○高野 貴大（茨城大学）

田中 里佳（上野学園大学）

三品 陽平（愛知県立芸術大学）

11：20～11：50

全体討議

定期総会 10月2日（土）13:00～14:15

日本教師教育学会 第31回定期総会

日 時： 2021年10月2日（土） 13：00～14：15

議 事

1. 大会校からの挨拶（筑波大学）
2. 大会実行委員長挨拶
3. 日本教師教育学会会長挨拶
4. 議長団選出
5. 報告事項
 - （1）一般会務
 - （2）研究部
 - （3）年報編集委員会
6. 審議事項
 - （1）2020 年度決算
 - （2）2020 年度決算 監査報告
 - （3）2021 年度予算
7. 次年度の研究大会について
8. 議長団退任

連絡事項

- * 総会参加資格：8月末日までに会費を完納している日本教師教育学会員です。
- * 手続き：該当会員にメールにて参加に必要な Zoom 情報を送ります。また、会員情報管理システムでもお伝えします。
- * お願い：学会事務局からのメール(office@jsste.jp)が届くようにしてください。
メールアドレスの追加・変更等がありましたら、会員情報管理システムからご自身で変更の上、学会事務局までお届け下さい。
- * 委任状：会員情報管理システムから送ることができます。なお、委任状提出者にも総会参加に必要な Zoom 情報はお送りいたします。

教育者の資質・能力と力量を考える

～教育現場と教師教育研究との間～

【趣 旨】

Society5.0、SDGs、STREAM、GIGA スクール構想、働き方改革のように、新しい時代に向けて教育、学校、教師を取り巻く状況は大きく変化している。そのような中、2021年1月には中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が答申されるとともに、3月には「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」が諮問された。そこには、小学校課程の要件緩和、複数学科等間での共通開設、教職課程における連携開設制度、教員養成フラッグシップ大学、「情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法」の追加、教員免許更新講習の見直しといった、具体的な問題が含まれており、教師教育のあり方について根本的な問い直しが迫られている。

そこで本シンポジウムにおいては、大会テーマ「教育者の資質・能力と力量を考える」のもとで、教育現場と教師教育研究のあるべき姿について検討する機会を設定した。

具体的にはまず、コロナ禍に伴う新しい生活様式が生まれつつある中、教育者に何が求められているのかについて、中央教育審議会の動向を視野に入れながら整理する。それとともに、長期休校、学校行事の縮小、GIGA スクール構想をふまえた ICT 教育の充実といった教育現場の変化に対して、教育者は日々どのような実践を行い、どのような課題を感じているかを分析する。さらに、目指す人間像や周囲の状況が多様化する中で、教育者の資質・能力と力量について、教師の専門性研究の観点から検討する。そのうえで、これからの時代における教育者の育成や力量形成の方法と課題について、教員養成の実践研究の視点から考察する。

以上の議論をふまえて、教師教育の実践と研究において、今後何を目指していけば良いかについて、各会員および学会の方向性を見出していきたい。

【シンポジスト】

- 1) 荒瀬 克己(独立行政法人教職員支援機構)
- 2) 小柳 和喜雄(関西大学)
- 3) 安藤 知子(上越教育大学)
- 4) 渡辺 貴裕(東京学芸大学)

【司会】高谷 哲也(鹿児島大学)、樋口 直宏(筑波大学)

○情報交換会は、Zoomではなく、SpatialChat(スペチャ)で気軽に行います。

<https://spatial.chat/s/31stjsste?room=203526>

自分の名前が入った丸いマークを、話したい人に近けると相手の声が聞こえ、遠ざけると聞こえなくなる、本物の懇親会のような楽しいオンラインコミュニケーションを経験してみませんか。参加者専用サイトに上記の URL がありますので、それをクリックして、お気軽にご参加ください。

なお、この情報交換室は、大会期間中ずっと開いていますので、参加を試してみてください。どの部屋も使えますので、お友達との待ち合わせや打ち合わせ、おしゃべりにもお使い下さい。

1. 【参加用意】飲み物などを用意して参加者専用サイト内の懇親会 URL をクリック
2. 【入場】SPETIAL CHAT(スペチャ)の画面になり、名前の入力を求められるので、【FullName】氏名のところに「氏名(所属)」を入れる。【About】というものもあるが、何を書いてもいい。次に【Join】というボタンを押すと、入場ルームに移動できる。
3. 【最初の部屋】入場ルームに 30 人以上になると動きが遅くなるので、速やかに画面右側に示される第 1~10 室のどれかに移動する。移動先が「最初の部屋」となる。
最初の部屋の指定←シンポジウム関係者は第 2 室が、自由研究発表者と司会者は、第 3~6 室のうちの自分の分科会名の部屋が「最初の部屋」となる(行けば案内がある)。それ以外の方の「最初の部屋」の選択は第 1~10 室どれでも自由。30 人を超えないように移動していただけるとありがたい。なお、第 1~6 室には、司会者がいる。
4. 【開始したら】プログラムは以下のとおり。開始 20 分経過後の部屋の移動は自由。

【挨拶と乾杯タイム】18:00~18:10←「最初の部屋」

※挨拶はどの部屋にいても聞こえます。

18:00 開会と学会長挨拶…浜田博文

18:03 乾杯

18:04 大会実行委員長挨拶…樋口直宏

18:07 大会事務局長挨拶…朝倉雅史

【歓談タイム】18:10~18:20←「最初の部屋」

※1~6 室までは、理事が自己紹介の司会をします。

【歓談タイム】18:20~18:55←部屋移動可

【閉会の挨拶】18:55

※どの部屋にいても聞こえます

※閉会後も二次会として自由に部屋を使えます。

＜ご注意＞

★パソコンでのご参加を強くお勧めします。ケータイ、タブレットでは共有画面が見られないなど機能が限られます。

★推奨ブラウザは、最新の Chrome, Firefox, Safari です。 ※一部のブラウザには対応していません。

★ハウリングには、マイクとイヤホンのご使用を。止まります。

10月 3日（日）大会第2日

自由研究発表

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ

ラウンドテーブル

研究推進・若手交流企画

第 10 分科会 10 月 3 日（日） 9:30～11:50

司会：矢野 博之（大妻女子大学）
小柳 和喜雄（関西大学）

9：30～10：00

本邦研修による南アフリカ研修員の授業観の変化
—初等算数指導主事を事例に—

○小野 由美子（星槎大学大学院）

10：00～10：30

非正規教員の職務満足度に関する検討
—TALIS 2018 の二次分析を通して—

○菊地原 守（名古屋大学大学院）

10：30～11：20

非正規雇用教員の現状・実態把握と資質・力量育成に関する総合的研究
—非正規雇用教員への質問紙調査より—

○和井田 節子（共栄大学）

○山田 真紀（椋山女学園大学）

藤田 英典（都留文科大学）

11：20～11：50

全体討議

第11分科会 10月3日（日） 9:30～12:00

司会：福島 裕敏（弘前大学）
高谷 哲也（鹿児島大学）

9：30～10：00

教師の知識の個別性に関する考察
―二人の小学校教師の事例から―

○佐藤 雄一郎（慶應義塾大学大学院）

10：00～10：30

学びの主体としての教師のニーズの検討

○香川 奈緒美（島根大学）

10：30～11：00

自分史から導く自己理論化と探究に向かう資質・能力の考察

○増田 周平（京都教育大学大学院）

11：00～11：30

小学校教師が有する社会科授業観の変容とその要因
―社会科授業に対するコミットメントを視点として―

○大西 慎也（京都ノートルダム女子大学）

11：30～12：00

全体討議

第12分科会 10月3日（日） 9:30～12:00

司会：子安 潤（中部大学）
前田 一男（立教大学名誉教授）

9：30～10：00

教育者山崎延吉の農業教育と人材養成
―徳育と修養団活動を中心に―

○田中 卓也（静岡産業大学）

10：00～10：30

教員が子どもを「叱る」行為に関する一考察
―小学校の生活指導を中心に―

○中塚 健一（小田原短期大学）

10：30～11：00

「暴力を考える」教育学において教師はいかに暴力を考え続ければよいのか
―ベンヤミン『暴力批判論』をてがかりに―

○日向 悠太（立教大学大学院）

11：00～11：30

「子どもの貧困」に関わった経験は教師にとっていかなる意味をもつか

○栗原 和樹（一橋大学大学院）

11：30～12：00

全体討議

第13分科会 10月3日（日） 9:30～12:00

司会：玉井 康之（北海道教育大学）
木原 俊行（大阪教育大学）

9：30～10：00

地域間移動を経験した初任教員の環境適応と時間的展望
—大学4年生から教員1年目にかけての縦断的な事例検討より—
○半澤 礼之（北海道教育大学）

10：00～10：30

教員免許状取得支援を目的とした教職課程学生の基礎調査
○藤平 敦（日本大学）

10：30～11：00

Instructional Rounds を用いた小規模校間における若手教員育成の組織化に関する
検討
○宮橋 小百合（和歌山大学）

11：00～11：30

学部新卒学生から新採教員へのトランジションに関する研究
—教職大学院修了後の現職教員学生とのかかわりに着目して—
○園部 友里恵（三重大学）

11：30～12：00

全体討議

第 14 分科会 10 月 3 日（日） 9:30～11:30
--

司会：浅井 幸子（東京大学）

梅澤 収 （静岡大学）

9：30～10：00

20 世紀初頭のアメリカにおける幼小接続を重視した幼稚園教員養成論
ーヴァンデウォーカー（Vandewalker, N.）の論考の分析ー

○奥田 修史（筑波大学大学院）

10：00～10：30

戦後初期の義務教育教員養成における教育実習

○山崎 奈々絵（聖徳大学）

10：30～11：00

ヴァイマル期におけるドルトムント教育アカデミーの教育実習に関する研究
ー現職教員の受け止め方に焦点を当ててー

○藤井 利紀（名古屋大学大学院）

11：00～11：30

全体討議

第 15 分科会 10 月 3 日（日） 9:30～11:50
--

司会：佐藤 修司（秋田大学）

森 透 （福井大学名誉教授）

9：30～10：00

教師の資質能力をめぐる政策と実践のレトリックと教師教育の課題

○百合田 真樹人（独立行政法人教職員支援機構）

10：00～10：30

政策文書で求められている教員の資質能力からみた近年の教職観の特徴

○臧 俐（東海大学）

10：30～11：20

規制緩和と「開放制」の構造変容

—教員養成・採用をめぐる行政施策を中心に—

○岩田 康之（東京学芸大学）

○早坂 めぐみ（高千穂大学）

○藤田（眞原） 里実（関西大学）

○大和 真希子（福井大学）

○山口 晶子（明治学院大学）

○米沢 崇（広島大学）

11：20～11：50

全体討議

第 16 分科会 10 月 3 日（日） 9:30～11:20

司会：紅林 伸幸（常葉大学）

森山 賢一（玉川大学）

9：30～10：00

「教師教育者の『行為の意図と省察』の開示」及び「学習者の『授業中の感覚の
メタ認知』」を埋め込んだ授業実践が両者に与える影響についての一考察
—教師教育者のセルフスタディとして—

○大村 龍太郎（東京学芸大学）

10：00～10：50

「チーム学校」の実現を目指すアクションリサーチ
—学校教育版 IPE の試み—（これまでの成果）

○肥田 武（一宮研伸大学）

○三品 陽平（愛知県立芸術大学）

10：50～11：20

全体討議

第17分科会 10月3日（日） 9:30～11:50

司会：別惣 淳二（兵庫教育大学）

中妻 雅彦（花園大学）

9：30～10：00

教育実習生の省察を促進するルーブリック共創のアクション・リサーチ
ーよりよい実習、実習指導を目指してー

○粟谷 好子（広島大学附属中・高等学校）

10：00～10：30

学生は保育実習での学びを小学校教育実習にどのように活かしているか
ー各実習の相乗効果を目指してー

○時田 詠子（群馬医療福祉大学）

10：30～11：20

コロナ禍における実習代替措置に関する実証的研究

○原 清治（佛教大学）

○古市 文章（佛教大学）

○浅田 瞳（華頂短期大学）

芦原 典子（佛教大学）

11：20～11：50

全体討議

変動する社会の中の学校・教師の再定義

—COVID-19のインパクトを問う—

【趣 旨】

質の高い優れた教師の育成は、教育政策においても、養成機関としての大学においても喫緊の課題であり、また、教師教育学会にとっても長年にわたる中核的なテーマである。近年、「GIGA スクール構想」「令和の『日本型学校教育』」「未来の学校」などの新たな教育政策や、＜思考力・表現力・判断力＞＜深い学び＞＜プログラミング学習＞＜小学校英語＞などの新しい学習・教育課題が次々と提示され、それが教職の履修内容に反映され、現場でも評価基準の新たな作成や指導技術の獲得・向上に取り組まれるようになっていく。

しかしながら、政府によって提示された未来や教育像が、果たして適切なものであるかといった問いや、こうした趨勢が、学校や児童生徒の「学び」を窮屈に、また過剰に統制していくことにつながったり、教師の自律性をますます狭め、専門職とは名ばかりの「考えない教員」「狭視野的教師」「目的なしの技術論に傾斜した教師」を輩出することにつながるのではないかというような疑問は、ここにはほとんど示されていない。

また、コロナへの対応における急速なICTの導入、「個別最適な学び」など政府が意図する政策が有無を言わさぬ力で推進する状況となっている。さらに、経済的なグローバル化が進展する中で、「教育＝＜「人材」育成＞」に一元化されようとしている。こうした状況に対し、改めて教育とは何かを、担い手としての教師の役割とは何かを考えること、これが迂遠ではあるが、教師教育を語る大前提になるのではないだろうか。

三年にわたる本課題研究の一年目として、今年はず、現代の教育を取り巻く社会状況をマクロな点から検討し（第一報告：佐藤学先生）、新型コロナウイルス感染症下の現場教員がこうした課題をどう受けとめているのか（第二報告：東大G）、現代の学校においてケアや平等・公正といった領域がどのように変容しているのか（第三報告：柏木智子先生）を報告してもらおう。こうした報告をもとに、マクロとミクロをつなぐ議論を参加者との間で共有しながら、現代の学校教育・教師役割の課題を明らかにする。

【司 会】

油布佐和子（早稲田大学）

【報告者】

- 1) 佐藤学（東京大学名誉教授）
「第四次産業革命と教育の未来」

2) 有井優太、岩堀翔太、影山奈々美、中野綾香、永杉理恵、望月美和子、渡部裕哉
(東京大学大学院教育学研究科)

「コロナ禍における学校・教師の問い直し：教師の語りから」

3) 柏木智子 (立命館大学)

「学校における公正・ケアの促進と「学び」の展望」

日本の大学における教員養成と教育学

—多様な「場」をつなぐ論理を探る—

【趣旨】

日本では「大学における教員養成」原則のもと、学士課程教育カリキュラムの一部に教職プログラムを含む形でカリキュラムが組まれています。また、免許状授与の「開放制」原則のもと、多様な組織運営形態を持つ大学で広く教員養成が行われていますが、そこの教育学の位置づけや内容は様々です。

近年の動向としては、文部科学省による「教職課程コアカリキュラム」の策定（2017年）とそれ以後の課程認定行政との連動といった形で大学の外側からの統制が強化される一方、日本学術会議では「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」の一環として教育学分野の参照基準が公表（2020年）されています。

では、日本の各大学ではこうした動向をどう捉え、どのように学士課程における教員養成のカリキュラムを策定・運用しているのか、その中で教育学はどう展開されているのでしょうか。今回のセッションではまず、様々なタイプの大学における教員養成と教育学の課題を語っていただき、それらを共有した上で、共通して取り組むべき課題を探りたいと考えます。

【司会＜コーディネーター＞】

鹿毛雅治（慶應義塾大学）

勝野正章（東京大学）

【報告者】

1) 岩田康之（東京学芸大学）

教員養成系単科大学における教員養成と教育学—東京学芸大学の組織とカリキュラムから考える—

2) 高旗浩志（岡山大学）

国立総合大学の教職教養科目—教育学部と開放制教職課程を有する大学の一事例—

3) 中嶋（高津）みさき（女子栄養大学）

問われる教育学の独自性、自律性—実践栄養学を踏まえた教職課程の現状と課題—

4) 坂井俊樹（開智国際大学）

新設小規模大学の立場から—開智国際大学教育学部の場合—

多様な教職ルートの構造と実態に関する国際比較研究（1）

—諸外国における多様な教職ルートの諸相—

【趣 旨】

課題研究Ⅲ（国際比較・交流）では、世界各国・地域における多様な教職ルートに焦点を当てて、その構造と実態を探る研究を進めている。わが国を含め、多くの国・地域では、教職に就くための複数の教職ルートが存在している。また教員不足や新たな教育ニーズへの対応という観点から、多様なキャリアや背景を有する人材が教職に就いている傾向も看取できる。本課題研究では、こうした多様な教職ルートの構造と実態を比較分析することを通して、これからの教師教育制度や実践をどう構想していけるかを考えたい。

本大会では、課題研究の1年目の成果として、まずは諸外国における多様な教職ルートの諸相を報告する。具体的には、アメリカ合衆国、ノルウェー、中国、ドイツの4か国を取り上げ、それぞれの国において多様な教職ルートがどのような文脈の中で存在しているのかを整理し、その特徴を考察していく。その上で、比較分析を通して世界的な傾向を明らかにするとともに、わが国の状況を相対化し、その特徴や課題に迫っていく。

【司 会】

北田 佳子（埼玉大学）、佐藤 仁（福岡大学）

【報告者】

1）小野瀬 善行（宇都宮大学）

アメリカ合衆国における多様な教職ルートの現状と課題

2）中田 麗子（信州大学）

ノルウェーにおける教員養成の高度化と多様化

3）張 揚（北海道大学）

中国における「特職教師」政策の実施背景と現状について
—農村地域における教員不足の問題に着目する—

4）辻野 けんま（大阪市立大学）

ドイツにおける教師教育の変容

変動社会の教職課程—武蔵大学教職課程を事例として—

◆ 企画者・登壇者

金井 香里（武蔵大学）

岩田 一正（成城大学）

◆ 概要

2020年度、武蔵大学では、学長による委嘱のもと「武蔵大学教職課程のあり方に関する検討プロジェクト委員会」が発足し（2020年7月、任期は2021年3月まで）、少子化に伴い予測される教員需要減という現実的課題に際しつつ、グローバル化、高度情報化、少子高齢化、リスク社会化といった変動する社会状況に鑑み、大学教職課程として課程履修学生に対してどのような学修機会を提供していったらよいかについて検討を行った。その過程には、有識者を招いての講演会や研究会、訪問調査、ききとり調査等が含まれる。

本ラウンドテーブルでは、本プロジェクトでの探究の成果として描かれた本学教職課程の未来像について報告したい。それを受けて、大学教育における教職課程の意義、変動社会における中規模私立大学の教職課程のあり方について、参加者との活発な意見交換を通じて考えていきたい。

教師教育における「省察」言説の生成と展開に関する予備的考察
—理論・政策・研究の関係から

◆ 企画者・登壇者

山崎 準二（学習院大学）

三品 陽平（愛知県立芸術大学）

長谷川 哲也（岐阜大学）

村井 大介（静岡大学）

◆ 概要

「省察」は、現在、教師の専門性の中核をなす絶対的理念として受け入れられ、教員養成カリキュラム等にも深く組み込まれている。それは、大学・大学院での教師教育にとどまらず、行政や研究者コミュニティにまで広がっている点で言説化されていると言えるだろう。

「省察」の言説化には、その聖性によって「省察」そのものを不問としてしまい、教師教育をめぐる問題状況を不可視化してしまう懸念がある。本ラウンドテーブルは以上の問題意識を念頭に、大学における教員養成の「省察」言説を相対化し、不可視化された問題状況を明らかにすることを目的としている。その手始めとして、「省察理論」、「教師教育政策」、「教科研究」という3つの領域から、日本の教師教育における「省察」言説の生成・展開をとらえるための予備的考察を行う。また、フロアからの意見を広く聞き、今後の研究の参考としたい。

コロナ状況下における授業研究会

◆ 企画者・登壇者

永島 孝嗣（東京学芸大学）
森田 智幸（山形大学）
黒田 友紀（日本大学）
村瀬 公胤（麻布教育研究所）
金田 裕子（宮城教育大学）
津久井 純（麻布教育研究所）
浅井 幸子（東京大学）
齋藤 智哉（國學院大學）

◆ 概要

新型コロナウイルスをきっかけに生まれた状況は、学校や教師たちに対して、授業研究会を実施するか否か、また、その実施形態（対面やオンライン、それらのハイブリッド）をめぐる判断を迫った。各学校でなされた判断の背景には、目的（何のために実施するのか）、方法（どのように実施するのか）、対象（何を研究するのか）、主体（だれが参加するのか）など、授業研究会とはどのような場なのかをめぐる論点が浮上していた。授業研究会は、授業づくりや教師の専門性の開発において大きな役割を果たしてきた。同時に、現在、その革新も求められている。

本ラウンドテーブルの企画者・報告者は外部支援者として、子どもと教師の学びの保障、授業の革新、学校改革の推進（システム・同僚性・PLC・学校文化の構築など）に対して、授業研究会という場を中心として、学校の外部から参加してきた。コロナの状況下で実施された授業研究会の形態、事例についての報告を踏まえて、授業研究会の現在を共有し、その意味と何の革新が求められているのかについて検討する。

ラウンドテーブルⅣ 10月3日（日） 16:30～18:00

**教師養成と子ども文化⑥ そして遊べる教師はいなくなった。遊べない教師たち
—遊びと学びの境界線について考える—**

◆ 企画者・登壇者

田中 卓也（静岡産業大学）
時田 詠子（群馬医療福祉大学）
中塚 健一（小田原短期大学）
香曾我部 琢（宮城教育大学）
中島 眞吾（中部大学）
西田 明史（中村学園大学）
塚越 亜希子（群馬医療福祉大学）

◆ 概要

本ラウンドテーブルは2016年より実施している「教師養成と子ども文化—そして遊べる教師がいなくなった。遊べない教師たち」の第6弾となる。よく子どもは『遊びの天才』といわれ、遊びを通じてさまざまな発想をもたらす存在として語られ、遊びを通じてその後の人生に影響を与える様々な社会的スキルを身につけていくことが多くの研究や実践によって示唆されてきた。子どもが遊ぶ姿は、学校外の放課後の生活だけではない。学校生活においても業間や昼休みなどでもよく見られる。しかし、学校での遊びの時間はごく一部で少ない。子どもたちの学校生活のほとんどは教科学習の時間に費やされる。本ラウンドテーブルでは、学校における遊びの重要性を提案することにある。学校での遊びの経験が、子どもの学びに影響を与え、より健やかな発達を促すことを多様な学術的背景を持つ専門家から提案する。とくに、今回のラウンドテーブルでは、学校における「遊び—学び」の境界線に着目して、学校における遊びと、その遊びを促す教師の専門的資質の在り方について議論を行う。当日はオンライン（zoom）を用いたセッションとなるため、このようなテーマに関心がある会員の方々の積極的な参加によって、さまざまな視野・角度で議論を深めることをのぞんでいる。不得意な子どもにすこしでも得意になるために、遊びを通して克服できることはないだろうか？また親（保護者）が子どもとともに遊びを介してその支援をすることは可能であろうか？さらに教師や親などおとなが本気で遊びに取り組むことはできるのだろうか？本ラウンドテーブルでは、学校現場経験者をはじめ、幼児教育研究者、子どもの健康運動研究者、英語研究者など幅広い専門性を身に付けた登壇者を招き、さまざまな視野・角度を通じて論じるものである。

**「保幼小・小」の接続期を担う教師の力量形成
—養成と研修ならびに資格制度の課題—**

【話題提供者】

伊藤 聡子（蕨市立中央小学校）、奥泉 敦司（金沢学院大学）

吉永 安里（國學院大學）

【担当理事/企画】

高旗 浩志（岡山大学）、金子 真理子（東京学芸大学）、前田 一男（立教大学名誉教授）

【サポート会員】

望月 耕太（神奈川大学）、小田 郁予（東京大学大学院）、

田中 里佳（上野学園大学）、渡邊 巧（広島大学）

【趣 旨】

第10期の「研究推進・若手交流支援企画」の活動を継承し、「若手研究者育成支援部」として装いも新たに若手研究者の活動を支援します。

前大会の研究推進・若手交流企画では、これまで本学会で十分に光を当てられなかった「幼児期の教育」及び「幼保小連携・接続」を切り口とし、「教師の力量形成における実際とそのあり方 —幼児期の教育と小学校教育を中心に—」と題するミニシンポを開催しました。今大会では昨年度の議論を継承し、「「保幼小・小」の接続期を担う教師の力量形成 —養成と研修ならびに資格制度の課題」と題し、3名の話題提供者に登壇頂き、参加者の皆様と議論を深めて行きたいと思っています。

折しも文科省初等中等教育分科会は「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置し、幼児教育の質保証をめぐる議論を進めています。その中では4つの論点（幼児期の学びの特性、幼児教育の質を支える要素、幼児教育と小学校教育の接続期における教育の質の現状と課題、一人一人の成長を支えるために配慮すべき事項）を掲げ、7つの事項を柱とする「幼児教育スタートプラン」を構想しています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10項目）」の是非も含め、「保幼小・小」の接続期における子ども理解やスタートカリキュラムの実際や、その担い手を送り出す養成教育・教師教育ならびに資格制度の課題について議論を深めたいと考えています。

女性の大学進学拡大と機会格差

日下田岳史著

A5・上製・三〇四頁・三九六〇円

現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革

古田雄一著

A5・上製・三二二頁・四六二〇円

米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜

福岡祐貴著

A5・上製・三六〇頁・三九六〇円

アメリカ教育例外主義の終焉

ジェフリー・ヘニグ著 青木栄一監訳

A5・上製・三二〇頁・三九六〇円

カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政

平田淳著

A5・上製・三六〇頁・四一八〇円

台湾における高等教育多様化の論理

廖于晴著

A5・上製・二四〇頁・三二二〇円

現代ロシアの教育改革——伝統と革新の光を求めて

ロシア・エト教育研究会 嶺井 岩崎 澤野 タスタン ベコフ 編著 A5・上製・四三二頁・三九六〇円

湾岸アラブ諸国における外国大学分校の質保証

中島悠介著

A5・上製・二七二頁・四一八〇円

教職協働による大学改革の軌跡

村上雅人著

A5・上製・二五八頁・二六四〇円

教学マネジメントと内部質保証の実質化

大学基準協会監修 永田恭介・山崎光悦編著 A5・上製・三三四頁・三二二〇円

学生参加による高等教育の質保証

山田勉著

A5・上製・一四四頁・二六四〇円

世界のテスト・ガバナンス——日本の学力テストの行く末を探る

佐藤仁・北野秋男編著

A5・上製・二六四頁・三二二〇円

科学技術社会と大学の倫理——高等教育研究論集第4巻

羽田貴史著

A5・上製・二九六頁・三二二〇円

国際教育開発への挑戦——これからの教育・社会・理論

萩原崇世・橋本憲幸・川口純編著

A5・並製・二五八頁・三〇八〇円

日本の異言語教育の論点

「ハッピー・スレイブ」症候群からの覚醒 大谷泰照著 A5・上製・二四〇頁・二九七〇円

フレイベルの幼稚園の原理——批判的検討

W.H.キルパトリック著 乙訓稔・別府愛監訳

A5・上製・一八四頁・三二二〇円

溝上慎一著 学びと成長の講話シリーズ(各四六・並製、続刊)

④ 高校生の学びと成長に向けた「大学選び」

偏差値もうまく利用する

二〇二二年 夏刊行

③ 社会に生きる個性

自己と他者 拡張的パーソナリティ・エージェンシー

二〇八頁・一六五〇円

② 学習とパーソナリティ

「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね」をどう見るか

二四八頁・一七六〇円

① アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性

若者のアイデンティティ形成——学校から仕事へのトランジションを切り抜ける

一八四頁・二〇〇〇円

若者のアイデンティティ形成

ジェームズ・E・コテ&チャールズ・G・レヴィン著

河井亨・溝上慎一訳

A5・上製・二九六頁・三二二〇円

「書くこと」による学生の自己形成

谷 美奈著

文章表現(パーソナルライティング)の実践を通じて

A5・上製・一八四頁・二六四〇円

日本の大学経営——自律的・協働的改革をめざして

両角亜希子著

A5・上製・四二四頁・四二九〇円

比較教育学のアカデミック・キャリア

若手研究 森下 穂川 明子・市川桂編著

A5・並製・二〇八頁・二二〇〇円

教育勅語の社会史

副田義也著

【副田義也社会学作品集IX】

A5・上製・四三二頁・六三八〇円

教育基本法の社会史

副田義也著

A5・上製・四〇八頁(予)

才能教育・2E教育概論

松村暢隆著

ギフテッドの発達多様性を活かす

A5・上製・三六〇頁・三九六〇円

近代日本学校教育の師弟関係の変容と再構築

岩木勇作著

A5・上製・三二二頁・四〇七〇円

越境ブックレットシリーズ(各A5版・並製、続刊) 専門を超えて総合的に論じる

④ 食と農の知識論

西川芳昭著

種子から食卓を繋ぐ環世界をめぐる

二二八頁・二二〇〇円

③ 他人事・自分事

菊地栄治著

② 女性のエンパワメントと教育の未来

天童睦子著

一〇四頁・二二〇〇円

① 知識論

山田尚子著

① 教育の理念を象る

田中智志著

一六〇頁・三二二〇円

① 知識論

山田尚子著

二二〇頁・二二〇〇円

20% OFF
特価
注文書

アマゾン

楽天
ブックス

honto



東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
http://www.toshindo-pub.com
03-3818-5521 03-3818-5514
toshindo.onlineorder1985@gmail.com
tk203444@fslinet.or.jp(代表)

* 博論書籍化、教科書・研究書出版のご相談は代表メールまで！

一藝社 書籍案内

ご注文や詳細は、弊社 HP まで！
他にも多くの教育本を取扱っております。

ものづくりの魅力

技術教育研究会（編）

「小学校ものづくり10の魅力」定価：本体900円＋税

「ものづくりの魅力—中学生が育つ技術の学び」定価：本体1,000円＋税

「高校生ものづくりの魅力」定価：本体1,000円＋税



アジア教育情報シリーズ全3巻

大塚豊（監修）

各巻定価：本体2,000円＋税 A5判 並製

1巻「東アジア・大洋州 編」

2巻「東南アジア 編」

3巻「南・中央・西アジア 編」



何が教育思想と呼ばれるのか —共存と超越性—

山中智志（著）

定価：本体2,600円＋税 A5判 並製 212頁

ISBN978-4-86359-127-1 C3037



独りとも在る —スピノザと象りの教育思想—

山中智志（著）

定価：本体2,700円＋税 A5判 並製 256頁

ISBN978-4-86359-224-7 C3037



学びを創る・学びを支える —新しい教育の理論と方法—

広石英記（編著）

定価：本体2,300円＋税 A5判 並製 208頁

ISBN978-4-86359-212-4 C3037



ともに考え深めよう！ 新たな道徳教育の創造

谷山貝公昭・大沢裕（監修）大沢裕・中島朋紀（編著）

定価：本体2,000円＋税 A5判 並製 156頁

ISBN978-4-86359-188-2 C3037



総合的学習の指導法 —Making of 総合的学習—

子どもの遊びと手の労働研究会（編）

定価：本体1,400円＋税 A5判 並製 112頁

ISBN978-4-86359-169-1 C3037



ゼロからの生活科入門

鈴木隆司（編著）

定価：本体1,833円＋税 A5判 並製 146頁

ISBN978-4-86359-182-0 C3037



授業が楽しくなる 生活科教育法

鈴木隆司（著）

定価：本体2,400円＋税 A5判 並製 108頁

ISBN978-4-86359-168-4 C3037



改訂版 教職用語辞典

橋本美保（編集代表）浜田博文・日暮トモ子・遠

座知恵・谷田貝公昭・高橋弥生・大沢裕（編集委員）

定価：本体2,600円＋税 四六判 並製 528頁

ISBN978-4-86359-185-1 C3537



高校における学びと技法 —探究で資質・能力を育てる—

山口哲男（著）

定価：本体1,800円＋税 A5判 並製 176頁

ISBN978-4-86359-198-1 C3037



UD授業から減災授業へ —共生社会をめざす実践研究—

富田道子（編著）

定価：本体1,300円＋税 A5判 並製 106頁

ISBN978-4-86359-225-4 C3037



教育の知恵60

—教師・教育者を励まし勇気づける名言集—

大沢裕（編著）

定価：本体1,700円＋税 A5判 並製 152頁

ISBN978-4-86359-187-5 C3037



図説 コミュニティ・スクール入門

貝ノ瀬滋（著）

定価：本体1,850円＋税 A5判 並製 196頁

ISBN978-4-86359-124-0 C0037



ちょっと変わった校長式辞集 —教育哲学者からのメッセージ—

山内紀幸（著）

定価：本体1,750円＋税 A5判 並製 130頁

ISBN978-4-86359-237-7 C3037



日本の海洋教育の原点 (戦後) 理科編

小国喜弘（編著）

定価：本体2,400円＋税 A5判 上製 242頁

ISBN978-4-86359-186-8 C3037



バスケットにおける生活陶冶思想の研究 —幼児教育の視点から—

大沢裕（著）

定価：本体12,000円＋税 A5判上製 箱入り 582頁

ISBN978-4-86359-223-0 C3037



良質な専門図書出版

教育／保育／政治

一藝社

〒160-0014 東京都新宿区内藤町 1-6 TEL：03-5312-8890 FAX：03-5312-8895

一藝社では、自費出版・テキスト製作等、書籍執筆のご相談も承っております。是非、お問い合わせ下さい。

検索



学校ガバナンス改革と危機に立つ「教職の専門性」

浜田博文 編著

定価3850円

教職の専門性が置かれている危機的状況の内実を解明。再構築するための社会的装置のあり方を理論的・実証的に追究する。

教育実習の日本的構造

岩田康之 編

定価3520円

東アジア諸地域との比較から日本の実習生たちや実習指導にあたる教員の抱えている課題を、東アジア諸地域との比較を基に構造的に解明した冊。

国際バカロレア教育と教員養成

定価2530円

未来をつくる教師教育

東京学芸大学国際バカロレア教育研究会 編

赤羽寿夫・佐々木幸寿・原健一・藤野智子 編著

国際バカロレア（IB）教育のすぐれた教育内容と教師の育成に焦点をあて、東京学芸大学附属国際中等教育学校の取り組みを紹介する。

現代アメリカ学校再編政策と「地域再生」

榎原孝子 著

定価5170円

アメリカ都市部において学校再編政策がいかに進められているのか「地域再生」との連関に焦点を当て、その特質と課題を解明。

新道徳教育全集（全5巻）

日本道徳教育学会 全集編集委員会 編著

総合的な視点から検討分析しつつこれからの道徳教育「を提言」。今後の道徳教育の道案内になる教育全集が刊行。 定価各3300円

第1巻 道徳教育の変遷・展開・展望

押谷由夫・貝塚茂樹・高島元洋・毛内嘉威 編著

第2巻 諸外国の道徳教育の動向と展望

棚沼良太・行安茂・西野真由・美林泰成 編著

第3巻 幼稚園・小学校における新しい道徳教育

永田繁雄・浅見哲也・大庭茂美・柴田八重子 編著

第4巻 中学校・高等学校・特別支援教育における新しい道徳教育

柴原弘志・七條正典・津田浩治・吉本恒幸 編著

第5巻 道徳教育を充実させる多様な支援

大学・教育委員会・家庭・社会における取組
田沼茂紀・島恒生・竹内善一・廣川正昭 編著

「未来の教育を創る教職教養指針」シリーズ 【編集代表】山崎準二・高野和子 定価各2200円

「現代日本の教師（研究を基盤にすえた高度な専門職をめざし日々研鑽と修養に励む現職教師および教師志望学生たち）に寄せる教職教養指針」を志すテキスト。

- | | |
|--------------------------|------------|
| 第1巻 『教育原論』 | 山崎準二 編著 |
| 第2巻 『教職原論』 | 高野和子 編著 |
| 第3巻 『発達と学習』 | 鹿毛雅治 編著 |
| 第4巻 『教育と社会』 | 油布佐和子 編著 |
| 第5巻 『教育の法制度と経営』 | 勝野正章 編著 |
| 第6巻 『カリキュラム・マネジメントと教育課程』 | 金馬国晴 編著 |
| 第7巻 『教科と総合の教育方法・技術』 | 子安潤 編著 |
| 第8巻 『道徳教育』 | 未刊 下司晶 編著 |
| 第9巻 『特別活動』 | 矢野博之 編著 |
| 第10巻 『生徒指導』 | 未刊 庄井良信 編著 |
| 第11巻 『教育相談』 | 武田信子 編著 |

教師教育テキストシリーズ <全15巻>

三輪 定宣【編集代表】 定価各1980円 ※1・3巻-2420円 5・9・11・13巻-2090円

教育職員免許法に定められた「教職の意義等に関する科目」のテキストとして最適。最新の内容を盛り込み、よりわかりやすく、加筆修正を施した改訂版。

- | | |
|-------------|--------------|
| ① 教育学概論 第二版 | 三輪定宣 著 |
| ② 教職論 | 岩田康之・高野和子 編著 |
| ③ 教育史 | 古沢常雄・米田俊彦 編著 |
| ④ 教育心理学 | 杉江修治 編著 |
| ⑤ 教育社会学 第二版 | 久富聖之・長谷川裕 編著 |
| ⑥ 社会教育 | 長澤成次 編著 |
| ⑦ 教育の法と制度 | 浪本勝年 編著 |
| ⑧ 学校経営 | 小島弘道 編著 |
| ⑨ 教育課程 第二版 | 山崎準二 編著 |
| ⑩ 教育の方法・技術 | 岩川直樹 編著 |
| ⑪ 道徳教育 改訂版 | 井ノ口淳三 編著 |
| ⑫ 特別活動 改訂版 | 折出健二 編著 |
| ⑬ 生活指導 改訂版 | 折出健二 編著 |
| ⑭ 教育相談 | 広木克行 編著 |
| ⑮ 教育実習 | 高野和子・岩田康之 編著 |

教師のための教育学シリーズ

教師のための教育学シリーズ 編集委員会 監修

優れた専門性と実践的指導力を備えた教師の育成のため、教育課程の概説のみならず、教育学の理論や知見を提供。

- | | | |
|----------------------|---------------------------|-------------|
| ① 教職総論 改訂版 | 教師のための教育理論 定価2200円 | 佐々木幸寿 編著 |
| ② 教育の哲学・歴史 | 定価2310円 | 古屋恵太 編著 |
| ③ 学校法 第二版 | 定価2750円 | 佐々木幸寿 編著 |
| ④ 教育経営論 | 定価2420円 | 末松裕基 編著 |
| ⑤ 教育心理学 | 定価2310円 | 糸井尚子・上淵寿 編著 |
| ⑥ 教育課程論 第二版 | 定価2310円 | 山田雅彦 編著 |
| ⑦ 教育方法とカリキュラム・マネジメント | 定価2530円 | 高橋純 編著 |
| ⑧ 特別活動 改訂版 | 総合的な学習（探究）の時間とともに 定価2530円 | 林尚示 編著 |
| ⑨ 生徒指導・進路指導 第二版 | 定価2420円 | 林尚示・伊藤秀樹 編著 |
| ⑩ 子どもと教育と社会 | 定価2310円 | 腰越滋 編著 |

障害教師論 中村雅也 著 定価3960円
「インクルーシブ教育と教師支援の新たな射程」
視覚障害のある教師へのインタビューから教育実践を浮き彫りにする。障害のある教師について総合的に論じた学術書。

戦後の教育実践、今へ伝えるメッセージ
早稲田大学教師教育研究所監修 定価2640円
「戦後教育実践セミナー」編集委員会 編
学校教育のあり方に三石を投じる授業方法や学校づくりの記録（講演者：小沢健一、横須賀薫、湯山厚、武藤啓司、市川博）

検証・全国学力調査 定価1430円
― 悉皆式を止め、抽出式で3年に一度で
吉益敏文・濱田郁夫・久富聖之・教育学科学研究会 編
全国学力調査の実態を検証する、今教育に関係する方に読んでいただきたい1冊。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

※肩書は執筆当時

～ことばは子どもの未来を拓く～



**我が子のいじめに
親としてどうかかわるか**
—親子で考える「共に生きる意味」—
阿形恒秀
(鳴門教育大学教職大学院教授)

**企業
編集**

一般社団法人 **子どもの未来応援団**
〒101-0032 東京都千代田区東本町 1-13 5サンカビル 1F
TEL 03-5829-4483 / FAX 03-5829-4484
E-mail info@kodomono-mirai.com
URL <https://kodomono-mirai.com>

発行

 **ジアース教育新社**
〒101-0054 東京都千代田区神田御鍛冶 1-23 宗保 2ビル
TEL 03-5262-7183 / FAX 03-5262-7892
E-mail info@kyoikushinsha.co.jp
URL <https://www.kyoikushinsha.co.jp>

豊かな学びを実現するためのアイデア

推薦 1 **広田照幸さん（日本教育学会会長）**
質の高い教育を全国すべての学校の教室で実現するために
本田由紀さん（社会学者）
少人数学級は、子ども一人一人を大切にする教育の必要条件です

これからの授業と教育課程づくりのヒント

コロナ禍による休校が明け、現在、全国の学校現場でさまざまな新しい取り組みがはじまっている。不安な状態を生きて子どもたちへの対応と心理的ケア、また、社会的距離の確保や指導カリキュラムの再考など、各地の実践事例を報告しながら、コロナ時代の新しい教育の在り方を考える。

定価本体 880 円 (税込)

コロナ時代の教師のしごと

こねからの授業と
教育課程
を
つなぐ
実践

東京大学大学院教育学研究科 教授 佐藤 学
東京大学大学院教育学研究科 准教授 佐藤 孝
佐藤 孝

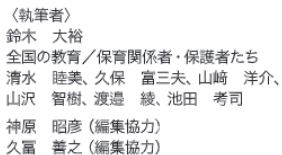
実際の体験を経て再読された学校で、
先生は子どもとどう向き合っていくべきか。
現場の実践アイデアと将来像を提案。

9

**現場で役立つ
アイデアがいっぱい**

実践と研究をつなぐ

月刊誌



◎おもな目次◎

- 1章 少人数学級の求める全国の声
- 2章 少人数学級の意義
- 3章 学級編制を考える
- 4章 “本格的少人数学級制” 実現へのプラン
- 5章 まとめ——よりよい未来の教育に向かって

定価本体1100円(税込)



毎月10日発行
A5判/112頁
定価 990円(税込)

教育

1933年創刊
年間定期購読募集！
年間定期購読料
1年(12冊)=11,880円(税・送料込)
お申し込みは旬報社までご連絡ください。

アメリカ教育長職の役割と職能開発 八尾坂 修編著 3300円	社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ 志村 喬編著 3300円
地理科地理と市民科地理の教育課程編成論比較研究 伊藤 直之著 8250円	新しい歴史教育論の構築に向日独歴史意識研究 宇都宮明子著 10450円
米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容 斉藤仁一朗著 9900円	ウイネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程 宮野 尚著 8250円
英語教師の生涯にわたる成長支援 三上 明洋著 6600円	マルチステークホルダーの視座から保幼小連携接続 一前春子・秋田喜代美・天野美和子著 3520円
大学生のための初等社会科概論 田部俊充編著 1650円	近代日本書字教育史研究 鈴木 貴史著 9900円
中等社会系教科教育研究 中平一義・茨木智志・志村喬編著 1980円	教員自主研修法制的展開と改革への展望 久保富三夫著 12650円
近江学園・びわこ学園における重症児者の「発達保障」 垂髪あかり著 8250円	保護者との関係構築に關する保育者の語りの検討 衛藤 真規著 7700円
保育所等における乳幼児ソーシャルワークに関する研究 鶴田 智子著 7150円	ジャック＝ダルクローズの教育観の発展 細川 匡美著 6050円
幼児が示す規範に関する検討 辻谷真知子著 7700円	思春期問題としての不登校 加藤 誠之著 7150円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房 (URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

戦後初期コア・カリキュラム 研究資料集 第1回配本 東日本編 全3巻

【編集・解題】金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)
【体裁】B5判・上製・約1,900頁／ISBN978-4-908823-38-1 C3337 【定価】本体90,000円+税
【巻構成】第1巻:解題・資料一覧 北海道・東北・北関東 第2巻:東京・南関東 第3巻:北陸・甲信越・東海
戦後初期、1948年～1950年代に各地の教師が自主的に作成したカリキュラム冊子を厳選して編集復刻!!

戦後初期コア・カリキュラム 研究資料集 第2回配本 西日本編 全3巻

【編集・解題】金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)
【体裁】B5判・上製・約1,900頁／ISBN978-4-908823-60-2 C3337 【定価】本体90,000円+税
【巻構成】第4巻:解題・資料一覧 近畿1(滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山) 第5巻:近畿2(兵庫) 第6巻:中国・四国・九州
【推薦】山田 満(筑波大学名誉教授)
今や1冊しか残らない冊子の抜粋で、教職課程のコアカリキュラムとは違う各校の多彩な模索と表現を明らかに

戦後初期コア・カリキュラム 研究資料集 第3回配本 附属校編 全3巻

【編集・解題】金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)／溝邊和成(兵庫教育大学教授)
【体裁】B5判・上製・約2,000頁／ISBN978-4-908823-68-8 C3337 【定価】本体90,000円+税
【巻構成】第7巻:解題・資料一覧 東日本(北海道・東北・関東・中部) 第8巻:西日本1(近畿1(京都・兵庫)) 第9巻:西日本2(近畿2・中国)・四国・九州
■第4回配本 全4巻(第10巻 附属校編、第11巻～第13巻 中学校編)は9月下旬に発売予定。ISBN978-4-908823-91-6

クロスカルチャー出版 〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6
TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708 <http://crosscul.com> ■呈内容見本

指導と学習の国際比較 よりよい数学授業の実践に向けて OECDグローバルティーチング・インサイト (GTI) 授業ビデオ研究報告書 国立教育政策研究所 編 〇2750円	北欧の教育最前線 市民社会をつくる子育てと学び 北欧教育研究会、林寛平、本所恵、中田麗子、佐藤裕紀 編著 〇2420円
教員環境の国際比較 専門職としての教員と校長 OECD国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018報告書 [第2巻] 国立教育政策研究所 編 〇3850円	教員の報酬制度と労使関係 労働力取引の日米比較 岩月真也 著 〇6380円
幼児教育・保育の国際比較 質の高い幼児教育・保育に向けて OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書 国立教育政策研究所 編 〇3960円	コロナ禍が変える日本の教育 教職員と市民が語る現場の苦悩と未来 NPO法人「教育改革2020」共育の杜」企画・編集 〇2200円
幼児教育・保育の国際比較 働く魅力と専門性の向上に向けて OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書 [第2巻] 国立教育政策研究所 編 〇4950円	教育は社会をどう変えたのか 個人化をもたらすリベラリズムの暴力 桜井細恵子 著 〇2750円
諸外国の教育動向2020年度版 文部科学省 編著 〇3960円	日本のオンライン教育最前線 アフターコロナの学びを考える 石戸奈々子 編著 〇1980円
諸外国の高等教育 文部科学省 編著 〇4620円	教育のデジタルエイジ 子どもの健康とウェルビーイングのために トレーシー・バーンズ、フランチェスカ・ゴットシャルク 編著 OECD 編 西村美由起 訳 〇3300円
TIMSS2019 算数・数学教育／理科教育の国際比較 国際数学・理科教育動向調査の2019年調査報告書 国立教育政策研究所 編 〇4950円	教育のワールドクラス 21世紀の学校システムをつくる アンドレアス・シュライヒャー 著 OECD 編 ベネッセコーポレーション 企画・制作 鈴木寛、秋田喜代美 監訳 〇3300円
図表でみる教育 OECDインディケーター(2020年版) 経済協力開発機構(OECD) 編著 〇9460円	教育のディープラーニング 世界に関わり世界を変える マイケル・フラン、ジョアン・クイン、ジョアン・マッキーチェン 著 松下佳代 監訳 濱田久美子 訳 〇3300円
多様性を拓く教師教育 多文化時代の各国の取り組み OECD教育研究革新センター 編著 斎藤里美 監訳 〇4950円	社会情動的スキル 学びに向かう力 OECD 編著 ベネッセ教育総合研究所 企画・制作 無藤隆、秋田喜代美 監訳 〇3960円

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
<https://www.akashi.co.jp/>
TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174
 *図書目録送呈 *価格税込

本広告をご覧のお客様限定! 広告内の書籍や関連書の購入を
 ご希望の方は、右の QR コードから販売ページにてお申込み
 いただきますと、期間限定で**送料無料**にて承ります。
 ぜひご利用ください! (公費対応可)



日本教師教育学会第 31 回研究大会

プログラム

[発行者] 日本教師教育学会第 31 回研究大会実行委員会

大会実行委員会委員長 樋口 直宏（筑波大学）

大会実行委員会副委員長 浜田 博文（筑波大学）

大会実行委員会事務局長 朝倉 雅史（筑波大学）

大会実行委員会委員（五十音順）

浅野信彦（文教大学）、石崎ちひろ（常磐短期大学）、内山絵美子（小田原短期大学）、小野瀬善行（宇都宮大学）、木村範子（筑波大学）、鞍馬裕美（明治学院大学）、高野貴大（茨城大学）、張信愛（関東学園大学）、藤井真吾（名古屋学院大学）、星野真澄（筑波大学客員研究員）、森貞美（聖徳大学）、吉田尚史（教職員支援機構）

[発行日] 2021 年 9 月 1 日

[連絡先 大会実行委員会]

〒305-8572 茨城県つくば市 天王台 1-1-1 筑波大学 人間系教育学域

日本教師教育学会第 31 回大会実行委員会事務局

E-mail cnf@jsste.jp